

かまぼこ



病院理念

人にやさしく 信頼される病院

基本方針

- 私たちは 皆様の権利や意思を尊重し、納得のいく医療を提供します。
- 私たちは 地域に必要な医療を提供し、健やかで豊かな地域社会の実現を目指します。
- 私たちは 安全で良質な医療を提供するため、日々研鑽いたします。

日本医療機能評価機構認定病院
羽咋郡市広域圏事務組合 ^は ^く ^い 公立羽咋病院

〒925-8502 石川県羽咋市の場町松崎24番地
TEL(0767)22-1220 FAX(0767)22-5598 <http://www.hakuihp.jp/>

スギ花粉症の予防と治療

花粉症とはスギ花粉などを中心とした樹木や雑草などの花粉がアレルギーとなって、体内にアレルギー症状を引き起こす疾患のことです。国民の3人に1人が何らかの花粉症に罹患していると考えられています。特にスギ花粉は遠方まで飛散するのと放置された杉林の増加のため、近年スギ花粉によるアレルギー性鼻炎患者が急増しております。



スギ花粉症の究極の予防法は杉林の無い地域への転居ですが（国内なら北海道）、たとえ北海道に移住しても今度はシラカンバの花粉症が待っています。現実には、スギ花粉の本格飛散日の少し前からの治療が症状を十分に抑えるポイントで、これを初期治療といいます。スギ花粉の飛散状況はシーズンになるとテレビや新聞で知ることができますが、少し早めに知りたい時は環境省のホームページで調べることが可能です。地元密着の花粉情報をお探しの方は、石川県医師会のホームページから検索できます。

花粉飛散期には、外出時は帽子やできれば眼鏡またはサングラスの着用がおすすめです。マスクも効果があります。上着はできるだけ滑らかな素材のものを着用して、帰宅時には玄関前で脱いで花粉を落としてから家に入りましょう。もちろんうがいや手洗いは必須です。布団や洗濯物は外に干さず室内乾燥で我慢が必要です。

薬局に行くと花粉症の治療薬が市販されています。過去に病院で処方されていた薬を、少量を少なくして売られていることが多いです。眠気の副作用や思った程効果が見られないケースもあります。特に点鼻薬では習慣性がある薬剤で、乱用によってかえって鼻閉症状が悪化するケースもあります。薬局薬剤師の指導のもと購入しましょう。

病院では最新の治療が受けられます。眠気が少なく鼻閉にも効果が高い薬剤も使えるようになりました。さらに、これまでは症状を抑える治療薬が主体でしたが、数年前から舌下免疫療法薬というスギ花粉エキスを微量含んだお薬を毎日口に含んで服用することで、スギ花粉に対するアレルギー症状が出ないようにする画期的な治療薬がでてまいりました。

残念ながら現在羽咋病院では舌下免疫療法は行なっておりませんが、金沢医科大学病院で治療が受けられますので、ご希望の方はご紹介いたしております。ただしスギ花粉飛散期はスギ花粉に対する舌下免疫療法を開始できません。スギ花粉が本格飛散する2月頃より2ヶ月以上前に始めるか、シーズン終了後の4月頃から開始可能です。さらに花粉症の時期だけではなく、

年間を通して重症の鼻炎症状をお持ちの方には、鼻腔を広げたり鼻汁を分泌する神経を切断したりする手術も金沢医科大学病院で行なっております。羽咋病院耳鼻咽喉科はスギ花粉症の最新医療の窓口として地域の皆様に開かれております。どうぞお気軽にご相談ください。



公立羽咋病院 耳鼻咽喉科

金沢医科大学耳鼻咽喉科学准教授 志賀 英明

行事紹介

院内災害トリアージ訓練を終えて

平成28年10月8日（土）のと里山海道でマイクロバスとワゴン車が正面衝突し、多くの傷病者が羽咋病院に搬送されました。

【もしもの時のために備えて】

平成29年度の公立羽咋病院災害トリアージ訓練は、11月25日（土）に、病院職員約50人が参加し実施されました。今回の訓練は、休日時間外にのと里山海道で大型バスが横転したとの想定のもと、患者受け入れ要請を受け、緊急連絡網による職員招集、迅速な災害対策本部の立ち上げ、複数同時搬入患者の診療トリアージを行い、院内の災害対応力の連携強化を図ることができました。一方で反省点や課題も見つかリ、羽咋病院はもしもの時のために備えて、今後も緊張感をもって繰り返し訓練を行っていきます。

* トリアージ：患者の重症度に基づいて、治療の優先度を決定して選別を行うこと

中央材料室・手術室 主任看護師／DMAT隊員 日下 和哉



平成29年度 石川県原子力防災訓練 に参加して



11月26日（日）志賀原発から放射性物質が飛散した想定での訓練に、石川県、羽咋市、羽咋消防署と連携する形で当院も参加しました。

当院では、本部の初動対応、放射線防護区域の稼働、重症化した患者さんを県立中央病院へ救急搬送する訓練を行いました。

関係機関との情報の流れや、実動訓練で見つかった課題などは、来年度以降の訓練に役立てたいと思います。

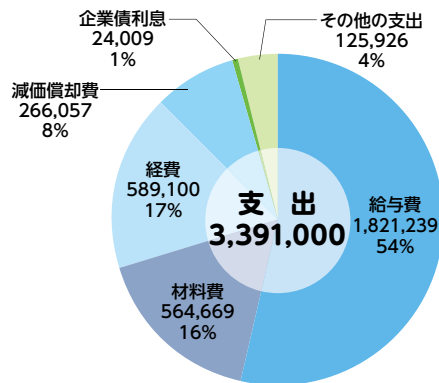
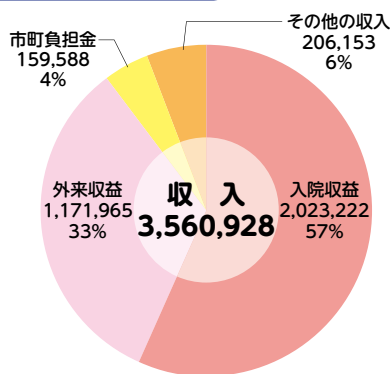
原子力災害対策チーム 井戸 浄清

平成28年度決算のお知らせ

平成28年度病院事業の決算について、ご報告申し上げます。

収支状況

(単位：千円)



当年度純利益 169,928 千円

利用状況

区分	年延患者数	1日平均患者数	患者1人1日当たり収入	病床利用率
入院	50,650人	138.8人	39,945円	79.8%
外来	115,154人	432.9人	10,177円	

感染予防研修会【排泄物の処理方法】

例年、11月から2月にかけては集団感染が集中する時期です。これに先がけて、当院では院内外の医療・看護・介護職員を対象にICT(感染対策チーム)による研修会が開催されています。

平成29年は感染した排泄物の処理方法について、オムツ交換と嘔吐物処理の2場面を想定し、実演をおこないました。院外からは59名の介護職員の参加があり、意見として「人手が足りない」「コストがかかる」など施設現場での生の声をきかせていただきました。これらの意見を参考に今後は、感染予防策について、より実用的な指導について考えていきたいと思えます。

感染対策チーム リンクナース 主任看護師 今西 信枝



はくい福祉まつり参加

当院の糖尿病対策チームは、平成29年も福祉まつりに参加させていただきました。

チームメンバーには、医師、看護師、薬剤師、理学療法士がおり、看護師・薬剤師・理学療法士は、それぞれ糖尿病療養指導士の資格を持っています。福祉まつりでは「あなたの血糖を測ってみましょう」をテーマに血糖を測定し、値が高い方には、糖尿病の治療や、食事・運動についての専門的なアドバイスをおこないます。

今年も、165名とたくさんの方に参加していただき、20数名の方が異常値を示したため、医師からアドバイスをおこないました。また、今年はスタンプラリーに参加したことで、小さなお子さんにもたくさん参加していただきました。小さなお子さんが、ドキドキしながら頑張っている姿がとてもかわいく、印象に残っています。

糖尿病は自覚症状に乏しく、気づいた時には重大な状況にいたってしまうことが少なくありません。これからも、福祉まつりに参加し、地域住民の皆様に関心を持っていただけるよう努めたいと思えます。

糖尿病対策チーム 副看護師長 西村 由記



第3回 退院後訪問指導



退院後訪問指導とは、安心安全に地域で生活が続けられるように、地域の訪問看護師や担当ケアマネージャーと連携し、病院看護師が主に自宅に訪問し指導をおこなうことです。対象は、在宅酸素療法をおこなっている方、胃瘻栄養を開始した方、ストーマ（人工肛門）を造設した方、認知症を有し日常生活に介助が必要な方です。昨年8月から、地域包括ケア病棟の看護師5名で活動をおこない、延べ44件の訪問指導に伺いました。

自宅に伺い、笑顔で安心して過ごされている顔を見て、私たちも、ご自宅に戻ることができて良かったと感じます。患者さんやご家族より「看護師さんの顔を見て安心した」「この方法で良いですか?」「安心して今後も続けていきます」などの言葉をいただいています。訪問を重ねることで患者さんやご家族が自信を持ち、笑顔で対応してくださる場面が多くなりました。



今後も、地域の訪問看護師さんと連携して情報を共有して行きたいと思います。患者さんがおだやかに自宅生活を過ごしていただけるように今日も訪問指導に出かけています。

地域包括ケア病棟 看護師 藤田 早智代

看看連携 ～嬉しい「羽咋市訪問ナースの集い」～

平成29年1月から「羽咋市訪問ナースの集い」が始まりました。羽咋市内の訪問看護師と羽咋病院の外来・病棟看護師が一堂に会して、互いの顔を見、お弁当を食べながら意見交換する集いです。地域や病院それぞれで起きる問題・課題について解決を図る、看護の連携を目的としています。

これまで、医療サービス推進室が主に地域と病院の繋ぎ役を担ってきました。加えて、「羽咋市訪問ナースの集い」ができ、訪問看護師と病院看護師が顔の見える関係になったことで、直接相談ができ、より綿密な情報交換ができるようになりました。処方調整や処置の継続などもスムーズになっています。相談内容は「羽咋市多職種連絡票」に記載され、電子カルテに保存され、入院しても在宅療養中の支援経過がわかり、外来と病棟の連携や退院支援に役立てることができて、嬉しく思っています。

病院看護師と地域の看護師が連携することで、より安心して長く在宅療養できる地域になるよう努めていきます。

医療サービス推進室
退院調整看護師 副看護師長
尾崎 真裕美



やすらぎコンサート

平成29年最後のやすらぎコンサートは、12月12日（木）羽咋白百合幼稚園の子ども達による素敵なハンドベルの演奏会となりました。「きよしこの夜」「おめでとうクリスマス」などクリスマスキャロルの楽曲や歌声が次々に披露され、集まった多くの患者さんもかわいい奏者さんの姿に微笑みながら聴き入っていました。最後に園児達からの握手やお手製のクリスマスカードがあり「早く元気になってね」の一言に目を潤ませる方もいらっしゃいました。心あたたまるクリスマスプレゼントになったことと思います。

医療サービス推進室 社会福祉士
真田 深雪



ありがとうごさいます

- ♥ なぎさ表紙題字・絵手紙 辻口 敦子 様
- ♥ 写真 羽咋写真協会の皆様
- ♥ 絵画 羽咋美術協会の皆様
- ♥ 書字 羽咋市書道協会の皆様
- ♥ 俳句 宝達志水町若輩会の皆様
- ♥ 園児の絵 羽咋幼稚園



いきいき健康づくり教室 予定

♪どなたでも参加できます♪

コレステロール・あぶらで血がどどど

開催予定日: 2/7(水)、3/7(水)、4/4(水)

第1水曜日 15:00~

場所: 3階病棟 食堂談話室

内科医師、管理栄養士、理学療法士

高血圧・塩で血管がパンパン

開催予定日: 2/19(月)、3/19(月)、4/16(月)

月1回不定 月曜日 15:00~

場所: 3階病棟 食堂談話室

内科医師、管理栄養士

ねたきりにはならない!

開催予定日: 2/28(水)、3/28(水)、4/25(水)

第4水曜日 15:00~

場所: 2階病棟 食堂談話室

整形外科医師、理学療法士、管理栄養士

季節の 写真



編集後記

新しい年が始まりました。

新しいことにチャレンジする人も多いと思います。

でも何かを始めることより、やり続けることの方がエネルギーがいる気がします。

私は、南天（難転）にちからをもらって、気持ちを新たにしてお正月でした。